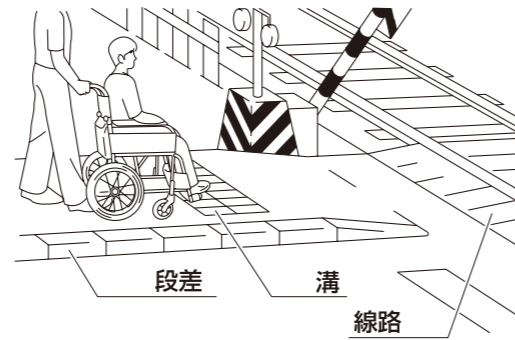


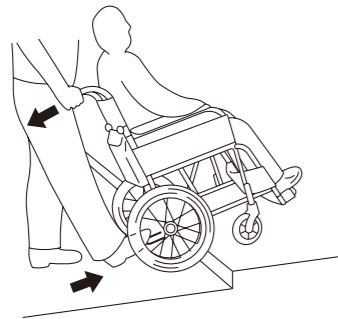
## 走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストの挟み込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



## 段の上がりかた

- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、前輪キャストを段の上にあげます。



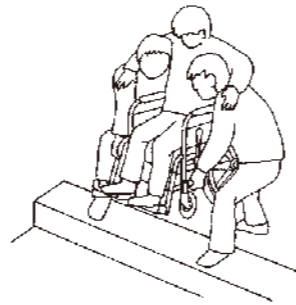
- 2 駆動輪(主輪)を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。  
\*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

### 車いすに乗ったまま持ち上げる場合



警告 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、レッグパイプ、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持って持ち上げます。



## 段の下りかた

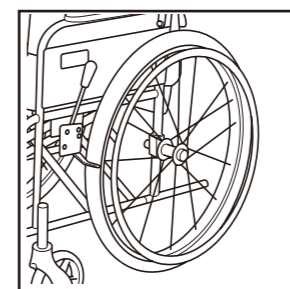
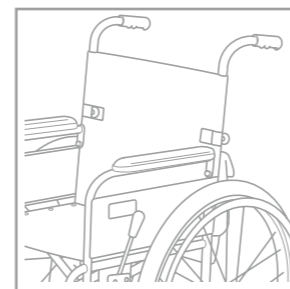
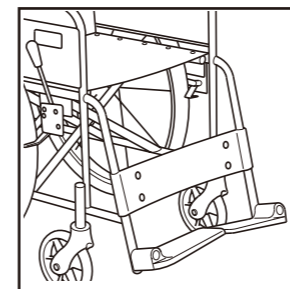
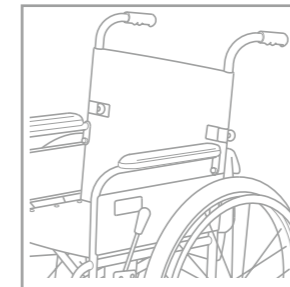
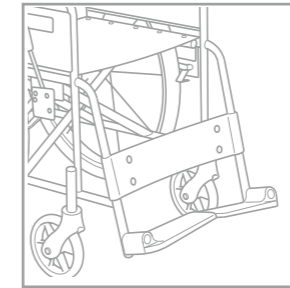
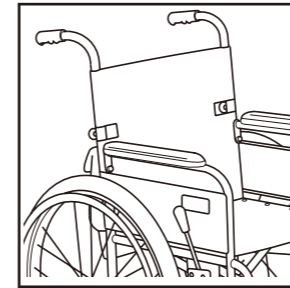
- 押し手とティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。  
\*無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。  
\*段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

# 車いす

# 取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために



## はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の状態、環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

## 目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	3
使いかた	4
開きかた/たたみかた	4
乗り降りのしかた	5
各部の調節のしかた	6
フットサポートの高さ調節	6
使用上のご注意	7
保守・点検	7
走行上のご注意	8
段の上がりかた	8
段の下りかた	8

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

製造元



株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号



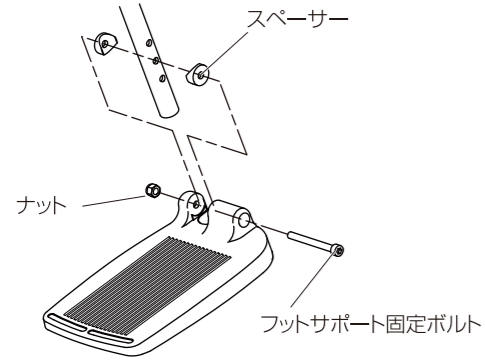


# 各部の調節のしかた

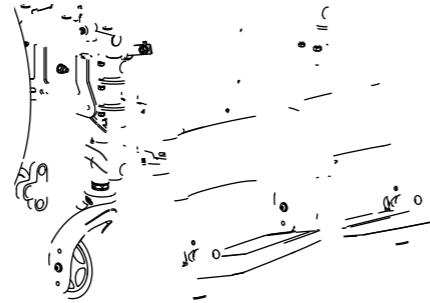
## 軽量フットサポート

フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。  
使用する工具：M5六角レンチ

- 1 駐車用ブレーキレバーを引いて、両輪のブレーキをかけます。
- 2 フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



- 3 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



- 4 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

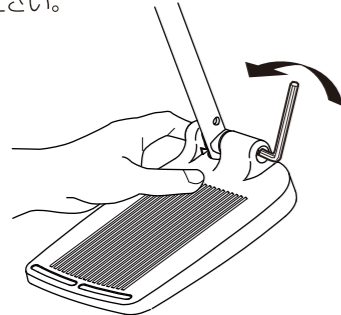
\*反対側も同様に調節してください。

## フットサポート調節のコツ

### 取り外すとき

- 1 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。

\* ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。



- 2 フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

### 取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。

# 使用上のご注意

## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。  
\* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告	キャスト、駆動輪(主輪)、ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
------	--

- タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気が抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)(エアータイヤの場合)

・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。(エアータイヤの場合)それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

・パンクの場合は、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)

・車いすは熱気、湿気に弱いので、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

## ● 各調整部分が固定されていることの確認

各調整部分をチェックし、確実に固定されていることを確認してください。

## ● 消耗品、交換部品の確認

⚠ 注意 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店へご連絡ください。

### 消耗品・交換部品

品名	交換時期
主輪・駆動輪タイヤ	タイヤの表面に溝がなくなったとき。
キャスト車輪	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、サビが発生したとき。

また、車いすのフレームの耐用年数は5年を基本として製作されています。5年経過後使用される場合は、必ずお買い上げの販売店または弊社へご相談ください。

## ● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

## ● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

## ● アームサポート、手押しハンドル等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠ 注意 シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

## ● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないときは、シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・サビやタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

⚠ 注意 折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。